

目 次

□ 實際的教育に重を置く	保科孝一
□ ロシアに就いて	中村、矢谷
□ 感想九篇	
□ 春の暮より (歌)	尾上 柴舟
□ 豊島野 (歌)	太田 光子
□ せんせい (歌)	岩田 ふみ
□ 朝曇り (歌)	安永 みち子
□ 春より夏へ (歌)	關 みさむ
□ 詠草より	
□ 文科の動靜 □ 遠足と旅行 □ 第三十八回文科會記事 □ 會計報告	
□ 研究(地理参考書)	
□ 本年度の豫告 □ おしらせ	
□ 中川先生を送る	

實際的教育に重を置く

保科孝一

【一】

歐米各國が近來實際的教育にすこぶる重を置くやうになつて來て居るのは、まことに著しい事實である。國民教科のすべてを實用に近づけよう、またなるべく實用し得るやうに教育しようとしてゐる。たとへば獨逸の小學校における割烹科について見ても、その一般の傾向を知ることが出来る。獨逸の小學校では、割烹の授業を四人一組一マルクの豫算で計畫してゐるが、この四人一組といふのは、獨逸の人口を戸數で割ると四人餘になるから、一家族の平均でまづ大體四人と見ての標準である。四人を一組として料理法の計畫を立てると、かりに二人分を調理するときでも、三人分を調理するときでも、すぐに應用が出来るが、もし十四五人あるひは二十三四人の學級を標準として計畫を立てた教案であるか、または牛肉一斤を調理する標準によつて計畫を立てた教案であると、これを三四人の客に對して應用する場合に、しばし誤算して調理をあまりることがある。しかしながら四人一組として作成した教案ならばほとんど誤算の恐がない。もつとも十四五人の客を催すとすると、あるひはその應用がすこしく困難になるかも知れないが、かゝる多數の來客が臨時にあることはない。臨時の客は主人と併せて二人か三人、多くて四人であるから、四人一組で練習した教案を應用するのは何等の困難もない。たとひ臨時突發の場合でも、調理法を誤つて恥をかく恐がなく、鹽加